

令和七年度入学者選抜試験問題（教育文化学部・地域文化学科）

小論文

後期日程

注意事項

- 一 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 二 この問題冊子は、四ページあります。解答用紙は一枚あります。問題は三題あります。三題すべてに解答しなさい。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの乱丁・落丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 三 監督者の指示に従って、解答用紙に受験番号を記入しなさい。
- 四 解答は、解答用紙の該当欄に記入しなさい。
- 五 配付された解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
- 六 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

一九一七年四月二日、アメリカ大統領ウッドロー・ウィルソンは、連邦議会の上下両院の合同会議に出席していた。目的は、第一次世界大戦に協商国側で参戦するべく、ドイツへの宣戦布告を議会に提案するためである。

それまで、アメリカは孤立主義の国であった。なぜ、アメリカの兵士たちがヨーロッパの戦争で血を流さなければならないのか。その理由を説明する上で、ウィルソンは次のように論じた。アメリカは、民主主義の国であり、ドイツのような権威主義体制とは共存することができない。だから、武力を行使してでも、その脅威を取り除き、皇帝ウィルヘルム二世の支配からドイツ国民を解放しなければならない。「世界は、民主主義にとって安全にならなければならない」。四月六日、上下両院の決議を受けて、アメリカはドイツに宣戦を布告した。翌一九一八年春、ヨーロッパ西部戦線にアメリカ軍が到着すると、戦局は一気に協商国側に有利に傾き、一二月にはドイツの降伏で戦争が終わった。この連邦議会でのウィルソンのスピーチは、彼の理想主義者としての側面を描くものとして広く知られてきた。だが、ウィルソンのスピーチに登場する「民主主義」という言葉が何を意味するのかを考えてみると、あることに気づく。それは、ウィルソンの言う民主主義に、女性が含まれていないということである。

一九一七年の時点で、アメリカではいまだ連邦レベルの女性参政権が導入されていない。この時代、一部の州では女性参政権が導入され、全米女性参政権協会（NAWSA）を中心とする女性参政権獲得運動がかつてない盛り上がりを見せていたものの、ウィルソンは与党内の保守派の反発を考慮して、連邦レベルでの女性参政権の導入に慎重な姿勢を崩さなかった。彼は、第一次世界大戦に参戦するという重要な案件を控える中で、議会と事を構えたくはなかったのである。

この局面で、ウィルソンの態度に業を煮やしたフェミニストたちが行動に打って出た。アリス・ポールの率いる全米女性党（NWP）が、「サイレント・センテネル」と呼ばれる活動家グループを組織し、一九一七年一月からホワイトハウスの正面玄関で抗議活動を開始したのである。活動家たちは様々な旗を掲げてウィルソンに女性参政権の導入を訴えたが、アメリカがドイツに宣戦布告すると、次のようなメッセージが書かれた旗も登場した。

ウィルソン皇帝陛下。自己統治の権利を持たない、哀れなドイツ国民に示された衷心を、もう忘れてしまわれたのですか。アメリカの二

〇〇〇万人の女性たちは、いまだに自己統治の権利を持っておりません。

抗議活動が続く中、徐々に活動家たちが逮捕されるようになり、一〇月にはポールも逮捕された。ウイルソンが従来の立場を改め、女性参政権の導入に向けて連邦議会の説得に踏み切ったのは、投獄されたポールがハンガー・ストライキを開始し、医師団による強制摂食が行われたことにショックを受けた結果であると言われている。議会下院は一九一八年には女性参政権を認める憲法修正案を可決したが、上院が説得に応じたのは戦後の一九一九年であった。合衆国憲法修正第一九条が全州の四分の三に当たる三六州の批准に基づいて発効し、女性参政権が正式に導入されるのは、一九二〇年である。

ウイルソンに限らず、多くの人は、女性参政権が認められる以前から、アメリカを民主主義の国と呼んできた。だが、フェミニストたちの批判に向き合うならば、この言葉遣いには注意が必要だろう。^②なぜ、女性が排除された政治体制が、民主主義と呼ばれてきたのか。より男女平等な政治体制としての民主主義は、いかなる体制なのか。(中略)

ウイルソンがアメリカの民主主義をドイツの権威主義と対比していることは、民主主義という言葉の意味を考える上で、興味深い論点を提起している。というのも、当時のドイツの政治体制は、いくつかの点でアメリカとの共通点を持っていたからである。

まず、アメリカでは一九世紀前半の時点で白人男性による普通選挙が行われていたが、ドイツ帝国も一八七一年の成立当初から、下院に当たる帝国議会には男子普通選挙を導入しており、人種に基づいて選挙権を制限していたアメリカよりも有権者の範囲は広かった。

また、アメリカは早くから複数政党制が発達し、南北戦争後には共和党と民主党による二大政党制が確立したが、複数政党制はドイツでも発達しており、反体制派であるはずのドイツ社会民主党は一九一二年の帝国議会選挙で約三五%の得票率で第一党となっていた。

それにもかかわらず、ウイルソンにとって、アメリカは民主主義国であり、ドイツがそうではなかったのはなぜなのか。この問題に対する回答こそが、現代の政治学における民主主義の概念の出発点になっていると言っている。それは、次のような考え方である。

【民主主義の最小定義】

政治指導者がどのように選抜されるかを定める政治制度を、政治体制と呼ぶ。民主主義とは、政治指導者が競争的な選挙を通じて選

ばれる政治体制を指す。これに対して、競争的な選挙が行われない国を、権威主義体制あるいは独裁体制と呼ぶ。

この民主主義の定義は、ヨーゼフ・シュンペーターの『資本主義・社会主義・民主主義』（一九四二年）において定式化され、政治学に絶大な影響を及ぼしてきた。民主主義の必要最小限の条件を示しているという意味で、この定義は「民主主義の最小定義」と呼ばれることもある。権力者が、選挙に敗北して退場する可能性があるかどうか。ある国が民主主義国であるかを判定する基準は、それだけである。選挙を通じた政権交代を可能にするような、結社の自由や言論の自由が保障されていれば、その国は民主主義国として分類される。

シュンペーターの議論は、民主主義体制を権威主義体制から区別する上で、非常に使い勝手が良い。例えば、日本の国政選挙ではほとんど常に自民党が勝つものの、一九九三年や二〇〇九年の総選挙に見られるように、野党が政権を奪取することもある。台湾では国民党と民進党の間で政権交代が繰り返されており、韓国でも保守系と進歩系の政党の間で周期的に政権交代が起きている。これに対して、中国の中国共産党やシンガポールの人民行動党は、政権を掌握して以来、一度も野党に転落したことがない。この区別に従えば、日本、台湾、韓国は民主主義体制であり、中国とシンガポールは権威主義体制である。

この考え方を頭に入れば、ウイルソンのスピーチの意味が分かる。アメリカでは民主党と共和党のどちらの政党の候補者も大統領に選出されるのに対して、ドイツでは帝国議会選挙の結果がどうなっても、皇帝や宰相が代わるわけではない。それが、アメリカを民主主義国、ドイツを権威主義国に分類する基準となる。逆に言えば、この民主主義の定義に従う限り、女性が参政権を認められているかどうかは、その国の政治体制を分類する上では関係がない。だからこそ、ウイルソンはフェミニストたちの非難を浴びることになったのである。

より広い角度から見れば、このシュンペーターの議論は、民主主義という言葉の意味を大きく転換するものであった。元々、古代ギリシャで生まれた民主主義という言葉は、「人民の支配」を意味していた。そして、その後の政治学の歴史において、一人の君主が統治する王政や、少数のエリートが支配する貴族政などの概念と対比して用いられてきた。これに対して、シュンペーターの民主主義の定義には、誰が支配者であるのかを示す表現は含まれていない。

ここには、現代の民主主義の仕組みに対する冷徹な見方が表れているといえよう。その民主主義は、古代ギリシャの都市国家が採用していたような直接民主主義ではなく、代議制民主主義である。有権者は、国会議員や大統領を選ぶ時以外に、自らの意見を表明し、意思決定に関

わる機会は基本的にない。実際に支配をしているのは、政治家であって、市民ではない。ウィルソンの時代には世論調査が技術的に確立しておらず、選挙の時点を除けば、政治家が自らの政策について有権者の賛否を具体的な数字で知る方法が存在しなかった。つまり、一見すると似ているように見える直接民主主義と代議制民主主義は、実は全く異なる作動原理に基づいている。アメリカやイギリスといった「民主主義国」にシュンペーターが見出したのは、「人民の支配」ではなく、選挙を通じた「エリート⑤の競争」だったのである。

しかし、ジェンダーの視点から見れば、疑問も浮かぶ。人口の半分に参加権を認めない国の政治体制が、なぜ民主主義と呼ぶに値するのか。シュンペーターは、民主主義の国と呼ばれるアメリカで行われている政治の仕組みに合わせて、民主主義を定義し直しているにすぎないのではないか。それは、黒を白と言い換えているようなものだ。むしろ、アメリカは民主主義国と呼ぶには値しないと言い切ってしまった方が、民主主義を定義する上では価値があるのではないか。

前田健太郎著 『女性のいない民主主義』（岩波書店、二〇一九年）より一部改変

問一 傍線部④「なぜ、女性が排除された政治体制が、民主主義と呼ばれてきたのか」に関して、筆者はどのような理由をあげているか。文中の言葉を用い、一二五字以内で説明しなさい。

問二 傍線部⑤「エリートの競争」がどのような意味かをふまえ、シュンペーターの民主主義の特徴を二〇〇字以内で説明しなさい。

問三 筆者の「女性のいない民主主義」の議論をふまえながら、「〇〇のいない民主主義」に相当する具体的な例をあげ、あなたの考えを五〇〇字以内で論じなさい。